

ハート・オブ・ゴールド

通信



vol.31

2014年7月15日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局
本部 〒701-1213 岡山市北区西幸川 895-7
レジデンスアロー 101
TEL&FAX 086-284-9700
E-mail: hginfo@hofg.org

URL: <http://www.hofg.org/>



クラチェ州でのRTによる授業の様子。継続して新しい体育を実施していくことが普及につながります。



ラタナキリ州での体育研修の様子。先生達も協力して新しい体育を学んでいました。



ストゥントレン州でのオープンクラスの様子。平均台はまだ各学校にないので、板を代用して実施しています。



ストゥントレン州での3rdモニタリングで、先生はマフラーを活用して体育の授業を実施していました。

カンボジア王国小学校体育科教育普及事業

プロジェクトマネージャー 西山 直樹

2013年4月から開始している独立行政法人国際協力機構（以下、JICA）との共同事業「カンボジア小学校体育科教育 自立的普及に向けた人材育成及び体制構築のための事業」は、2014年1月より、2番目の普及地域であるクラチェ地域（クラチェ州、ラタナキリ州、ストゥントレン州）に入りました。

スヴァイリエン地域同様、①拠点校選出、②地域トレーナー（RT）選出、③地域トレーナー育成研修、④新体育研修、⑤新体育導入研修、⑥3回のモニタリング、⑦公開授業の順で半年をかけて実施した普及活動は6月をもって無事終了しました（それぞれの具体的な研修内容についてはハート・オブ・ゴールド（以下、HG）通信30を参照）。これで2地域での普及活動が終了しましたが、今までの2地域を比べると以下のような違いがありました。

①ラタナキリ州、ストゥントレン州はプノンペンから9～12時間かかる地域にあり、国際機関やNGO等の支援が入りにくいため、今回のような研修は現地の先生方や州・郡の教育局の方々にとって



ストゥントレン州の3rdモニタリング
褒めあうことも体育の中で学んでいます

ありがたく、彼らの研修・モニタリングに対する意欲はかなり高いものがありました。

②2番目の地域であったことから、HGスタッフ及びナショナル・トレーナー（以下、NT）も研修・モニタリングの実施の仕方に慣れてきており、いくつかの研修はNTが主体的に実施できる等、経験を通

じた能力の向上が確認できました。

また、2013年10月より本プロジェクトの特徴の1つであるNT独自での担当地域のモニタリングを実施しています。前フェーズではワークショップ及びモニタリングの後、評価するまでに長い地域では2年も状況を見に行けなかったため、本プロジェクトでは、NTにオーナーシップを持たせる意味も含め、NTが独自でモニタリングを行う手法を採用しています。計画・報告書の書き方は継続した指導が必要ですが、これにより各地域の新体育の実施状況が確認でき、各小学校での課題にも対応できます。

2014年9月から10月にかけては筑波大学を中心とした日本での研修も計画しており、引き続きNTの能力向上及び地方での普及システム確立を目指し、プロジェクトを継続していきます。

第19回アンコールワット国際ハーフマラソン HG ツアーにご参加を！

ニューチャイルドケアセンター (NCCC)

プロジェクトオフィサー 磯邊 千春



New Child Care Center(NCCC)では、「NCCC の子どもたちの生活向上及び自立のための事業」(日本国際協力財団の助成)が3年目に入りました。活動内容は、(1)施設環境整備、(2)組織強化、(3)教育支援、(4)コミュニティ開発活動、(5)啓蒙開発活動の5つにより成り立っています。

そのなかで新しい事業として、2月よりチェイ村の主婦を対象とした保健健康教室「サラ―チュガニ/おいしい教室」を開催しました。この講座は保健・栄養・料理の3つに分かれています。保健教室では看護師・検査技師によるカンボジアで多い病気「腸チフス」「B型肝炎」などについて、栄養教室では栄養素や食事のバランス等について、料理教室では「カレー」や「お好み焼き」

などの日本料理を学びました。家族の健康のために学びたいという主婦が約10名集まり、日曜日に8回実施しました。カンボジアでは、このような機会がなかったためみんな意欲的に取り組んでいました。病気についても実際に自分が病気を持っているという方もあり、どんなことに気をつけたらいいのか、また間違った知識についても気付くことができ、正しい知識を得ることができました。料理については見たことも食べたこともない日本料理でしたが、味付けや調理方法に興味をもち、しっかりとメモをとっていました。「自分の病気を正しく知ることが出来た」「日本料理をうちでも作っ



て家族に食べさせてあげたい」「もっといろんなことを勉強したい」といった感想ができました。NCCC の子どもも大きい子は参加し一緒に学ぶことができました。今年度はもっとい

ろな内容を学べる講座を開きたいと思っています。

また、3月には女子棟下の改築工事が行われ、管理フロア(事務所と資料室)が完成しスタッフが机を並べて仕事ができ、大切な書類などの保存・整理が行えるようになりました。今年度もいろいろな活動を通して、18名のNCCCの子どもが豊かに成長できることと、地域コミュニティの成長に寄与していきたいと思っています。

* バン・サオピアより *

昨年は午前中岡山学芸館外国語学校で日本語を、午後からカモン美容室にて美容師の研修をしてまいりました。お陰様で、この4月からは岡山ビューティーモード(OBM)に入学することができました。保健・化学・衛生管理・物理などの専門用語に苦しんでいたところ、先生達やHGのボランティアさん達が、協力して補習してくださることになりました。夢に向かって本格的に歩き出しました。



2年生に交じって岡山県美容技術コンクールにも参加(左サオピア)

私の前には道がありません。時々心配になります。前だけ向いて進みなさい。進んだ私の後には、道ができると教わりました。これからも、決



OBM 入学式

写真提供：岡山ビューティーモード

して夢をあきらめないで、前を見つめて進みます。皆さんも応援してください。それが私の力になります。

HGむつみ日本語教室



2013 年度も日本から多くの団体や学校が教室を訪問され有意義な交流ができました。

2 月には、13 年振りに教室の改修工事を行い、快適な環境となりました。工事中は歌や遊びを取り入れた野外教室を行い、楽しい授業にな

りました。

岡山学芸館高校に留学していたラエム・セーラー（7 期生）は、12 月に日本語能力試験 N-3 に合格、帰国後は高校 3 年に復学し卒業に向けて頑張っています。

引き続き本年度の留学生として、ルット・スンナラー（男子）が同校に 4 月入学。

ホストファミリーの那須さんをはじめ留学里親の方のご厚意のもと、充実した学校生活を過ごしています。

図書館ができた！

プロジェクトオフィサー 大澤 一夫



神戸垂水ロータリークラブ（坂井良行会長）との協力で、カンボジア・コンポントム州のテチャーミヤ小学校に建設しました。かつて同クラブの奨学生で神戸に留学していたルム・リアッセイ（プノンペン大学教授）の母校であり、建設後もリアッセイ教授が協力できることから、この小学校に決定されました。

HG にとって初めての図書館建設であり、手探りのプロジェクトでした。まず、5 月にはカンボジアで信頼できる建設業者を探すところから始め、複数の建設業者から見積りを取り、図書館として機能するためには何が必要なのかを考えながら、見積り項目の 1 つ 1 つを比較精査し、



必要な項目と金額を確定させました。その後、坂井様・テチャーミヤ小学校・建設業者・HG の 4 者による契約書や覚書を、それぞれが理解できる言語（英語・クメール語・日本語の 3 言語）で作成し契約の後、11 月から着工しました。

建設工事が始まってからは、車で片道 4 時間かかる建設現場を定期的に訪れて、設計書どおりに建物が建てられているか、予定どおり進捗しているかを確認し、最終時には、校長先生からの新たな要求を受けて建物の周囲に 1 メートル幅の舗装工事を追加しました。

2 月、盛大なオープニング式典が開催され、正式に図書館を小学校へ

雨天体育施設



年間半分が雨季であるカンボジアで、雨季の時にも運動ができるように長年要望されていた、簡易体育施設を 2013 年度に建築した。

場所はシアヌークビル州のチアシム小学校。徳島県勤労者福祉ネットワーク、HG 愛媛クラブ、かすみがうらマラソン、ボランティア支援マラソンなどから協力を受け、カンボジアの小学校に初めての試みとして設置に至った。現在雨季である学校でとても有意義に使われており、HG では第 2・第 3 の施設建築に向けて支援金を募集中です。

引き渡すことができました。式典には、日本から来訪された同クラブの方々 11 名をはじめ、コンポントム州教育局長、テチャーミヤ小学校の皆様にご参加いただきました。館内には、坂井様達が寄贈されたクメール語の絵本が本棚に並べられ、式典が終わった後、さっそく子ども達は待ちわびていたかのように図書館の中に入り、大きな声で本を音読し始めました。子ども達が喜んで本を読んでいる姿を見て、労苦も癒されたと感じました。

そして、この事業は単に図書館建築というハード面だけでなく、先生方が司書の研修を受け、毎日クラスごとに図書館を使った授業が組み込まれるなど、ソフト面も考えられており、子ども達にとって有効な事業となったことを確信しました。

3.11 子ども animo プロジェクト

全国からの支援が減少しているなか、(株)ロード&スカイ様の資金をもとに、JS ファウンデーションと協力して、まだインフラが整備されていない被災地の真っ暗な夜が少しでも明るくなるために、そして持続可能な開発として、現地教育委員会と相談しながら、太陽光街路灯を設置。

津波で崩壊した石巻市立渡波小学校が元の場所にて、改修工事を完了したので5基の街路灯を設置しました。



渡波小学校 街路灯贈呈式

(2013 年度合計：68 基) 3月26日に、有森代表は渡波小学校を訪問、街路灯贈呈式で、「暗い時に輝き、周りを明るく照らす街路灯のような人になってください」と子ども達に訴えました。昨年と同じく、東松島市立野蒜小学校には、卒業アルバムを支援しました。

今年度も、復興までの道のりを継続して支援したいと思っています。皆様のご支援をお願いいたします。



野蒜小学校の子ども達から送られたお礼の旗

すべての教員が体育を行えるよう支援

青年海外協力隊 藤丸 洋平

(2013 年 10 月より 2014 年 6 月末まで HG にて活動)

私が取り組んだ活動で主になったのは、シェムリアップ州の小学校3校、教員養成校1校における体育科教育の普及活動でした。以前のプロジェクトで、各学校には研修を受けた数名の教員がおり、教員向けの指導書もあります。この教員と指導書を中心にすべての教員が体育を行えるよう支援していくのが私の役目でありました。

カンボジアの先生方は、よくこう言います。「体育は高い専門性や運動能力が必要なので、私にはできない」

しかし、これは大きな誤解です。普段の遊びの延長でも体育はできますし、先生がしっかりルールさえ理解し、子ども達に守らせることができれば、子ども達は自然とその運動に意味を見出します。

このことを念頭に、各学校で毎月一度、ワークショップを開き、月ごとに取り組む内容を先生方が実際に体験し学び、後日学校巡回をしながら、それぞれが抱く疑問に答えていました。各学校で体育を行う条件も全く異なります。道具の有無(コーンやボール等)、グラウンドの環境条件(タイルや土)、時間割の構成も違うため、学校ごとに先生達が抱く疑問も様々でした。



カンボジアでは一年を通して気温が高いため、一般的に早朝と夕方しか体育を行いません。学校によってはクラス数が多く、場所、道具の制約があり、時間割を変更せざるをえないこともあります。それでも先生方は、自ら試行錯誤し、徐々に自信をもって授業を行えるようになりました。体育を楽しみに学校へ通う子も見受けられるようになりました。これは今のカンボジアでは小さくも、とても意味のある一歩です。今後もこれらの学校が中心となり、さらに広い範囲で体育が普及していくことを願っています。

第4回淀川国際ハーフマラソン 有森裕子ハート・オブ・ゴールド支援レース

3月21日、大阪の淀川河川公園にて「3.11 子ども animo プロジェクト」の支援レースとして、早朝の雨で会場コンディションが悪いなか、3kmファミリー、10km、ハーフに7,000余のランナーが参加し楽しい雰囲気で行われた。当大会より支援金として117.6万円をいただきました。



第34回篠山ABCマラソン大会

3月2日、早朝の雨のため会場はあちこち水溜りができ、曇りで気温5℃という寒い日になりました。9,000人余のランナーが丹波路を苦しいながらも沿道の人々の応援に応えながら楽しく走りました。本年も多くのランナーの方々にオリジナルグッズで協力をいただき、また当大会からは、75万円の寄付金をいただきました。



第24回かすみがうらマラソン

4月20日、大会史上最多の22,270人が参加しました。有森代表が伴走した杉田さん（盲人ランナー）は10マイルで優勝を果たし、姉妹マラソンであるアンコールワット国際ハーフマラソンからは、5Kに義足ランナーのヴィスナーン氏（41歳）と10マイルにトーン氏（21歳）が出場しました。

本年もかすみがうらマラソン大会からは100万円の寄付をいただき、



カンボジアの子ども達や障がい者のために活用します。

招へいランナーたちは、HG 東日本会員交流会に参加したり、協力企業を訪問したり、サプライズの歓迎会を受けたりし、日本滞在を心から楽しんで帰国しました。

第8回スプリング・チャリティ・ディナー



2月28日（金）、八芳園（東京・白金台）にて、今年も華やかに開催されました。

今回も100名を超える方々にご参加をいただき、食事の後、オークションや抽選会で盛り上がり、庄野真代さんのミニライブに酔いしれました。

西日本会員交流会



3月21日、淀川ハーフマラソン後、大阪駅前第一ビル「老房」で開催しました。

当日24名の会員が参加。代表よりHGの活動報告に引き続き、伊藤会員による乾杯から懇親会に入り、自己紹介を兼ねてHGへの想いを語る等、和やかな会になりました。

HG 会員交流会

6月25日、総会後NPO センターきらめきプラザで、HG 交流会を開催しました。留学生2名（スナラーとサオピア）やカンボジアから一時帰国のNCCC スタッフ磯邊も参加して、にぎやかな会となりました。

東日本会員交流会



かすみがうらマラソン後、例年通り、上野駅近くで東日本交流会を開催しました。当日35名の会員が参加。カンボジアからの二人のランナーを交えて懐かしい方、新しい方と活発な交流が行われました。

実行委員会から総額480万円のご寄付をいただきました。商品をご提供いただきました企業、個人の皆様、チャリティーとして落札いただきました皆様、実行委員会の方、本当にありがとうございました。

主な活動報告 (2014 年前半)

1/13 ライオンズクラブ国際財団 NCCC を訪問
 1/18 岡山学芸館清秀中学校研修旅行受入 (シェムリアップ)
 1/25-26 カンボジア・ジュニア・サッカー大会 (プノンペン)
 1/27 国連ユースリーダーズキャンプ (代表講演、東京)
 2/5-3/29 ESD パネル展 (岡山)
 2/9 チャリティー耐寒登山 (大阪)
 2/10 姫路東ロータリークラブ例会
 2/12 岡山旭ライオンズクラブ例会
 2/19 図書館贈呈式 (神戸垂水ロータリークラブ参加)
 2/27 雨天体育施設贈呈式 (徳島勤労者ネットワーク参加)
 2/28 スプリング・チャリティーデナー (東京)
 3/2 第 34 回篠山 ABC マラソン
 3/3 富山 YMCA 研修旅行受入 (シェムリアップ)
 3/3 第 7 期留学生帰国
 3/3 御津中学校出前授業 (岡山)
 3/4 岡山南ロータリークラブ例会
 3/7 常葉大研修受入 (プノンペン)
 3/11 筑波大研修受入 (プノンペン)
 3/20 淀川国際ハーフマラソン・西日本会員交流会 (大阪)
 3/24 第 8 期留学生来日
 3/24 CUE 学生団体受入 (プノンペン)
 3/25-27 3.11 スタディーツアー (宮城・福島)
 3/30 ストリートチャイルド支援イベント (岡山)
 4/10 神戸垂水ロータリークラブ例会
 4/20 第 24 回かすみがうらマラソン (土浦)
 4/20 東日本会員交流会 (東京)
 4/27 百間川フェスティバル (岡山)
 5/1 平福小学校出前授業 (岡山)
 5/6 アニモチャリティーバザー (岡山)
 5/11 Arimori cup マラソン大会 (穂別)
 5/14 第 3 藤田小学校出前授業 (岡山)
 6/5 HG 総会・理事会・会員交流会 (岡山)
 6/20 政田小学校出前授業 (岡山)
 6/24 アニモの会 (岡山)
 6/28 真備東中学校出前授業 (倉敷)

主な活動予定 (2014 年後半) 変更あり

7/3 ~ 太陽光街路灯設置開始 (福島市内小学校)
 7/4 政田小学校出前授業 (岡山)
 7/11 伊島小学校出前授業 (岡山)
 8/30 HG 福島クラブ総会・交流会
 8/31 HG 長岡クラブ総会・交流会
 9/14 吹田中の島チャリティーラン
 9/28 親子チャリティーマラソン in おもちゃ王国
 11/30 富士山マラソン
 12/4 - 12/9 スタディーツアー
 12/5 アンコールウオーキング
 12/7 第 18 回アンコールワット国際ハーフマラソン
 12/23 山陽女子ロードレース

総会開催

6 月 25 日 (水) 午後 5:30 から岡山 NPO センター
 きらめきプラザ 2 階、研修室にて第 16 回 (2013 年度)
 総会を開催しました。

事業報告並びに決算報告、事業計画案並びに予算案
 が承認可決されました。スタッフ一同、本年度も一層充
 実した活動となるように取り組んでまいります。

さらなる皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいた
 します。

● 支部だより

- ・東日本支部 (リーダー: 志澤公一)
 会員交流会、マラソン大会、イベントの調整
 3.11 子ども animo プロジェクトのスタディーツアー調整
- ・西日本支部 (リーダー: 武藤勝行)
 会員交流会、マラソン大会、イベントの調整
 毎年、チャリティー耐寒登山主催

● クラブだより

- (各クラブは、独自の活動により HG の活動に協力・参
 加くださっています。)
- ・飯田クラブ (代表: 酒井誉、事務局長: 羽場一雄)
 障がい者支援を中心に寄付及び現物支援
 りんごジュース・梅ジュースの販売
- ・福島クラブ (代表: 本田直、事務局長: 今野金哉)
 3.11 子ども animo プロジェクトを主に、スタディツ
 アーの受け入れ、太陽光街路灯設置活動
 クラブ会員のカンボジアスタディーツアーへの参加
- ・石巻クラブ (代表: 木村明子)
 3.11 子ども animo プロジェクト (渡波小学校太陽光
 街路灯設置) の活動、スタディーツアー受入れ
- ・愛媛クラブ (代表: 宮内正俊)
 雨天体育施設建築支援、カンボジアマラソン参加
- ・長岡クラブ (代表: 清水幸史)
 みしま西山連峰登山マラソンにて広報
 米・地酒・味噌の販売
- ・こまちハート・オブ・ゴールド (理事長: 藤原寛文)
 カンボディア対人地雷被害者救済チャリティーラン
 「おがち健康マラソン」開催
 書き損じハガキなどを定期的に収集

*** 事務局からのお知らせ ***

●ボランティアさん紹介と募集中！

本部事務局に10 月より新井君子さんが、4 月より有森円さんが活動してくださっています。

事務局では、事務作業、イベントの手伝い、専門知識を生かした作業（プロボノ）など、無理のない程度で一緒に活動いただける方を募集しています。ご連絡をお待ちしています。

●物資輸送ボランティア

カンボジアに行かれる方で、日本から、また現地からの物資を届けてくださる方を募集しています。

出発の飛行場で受け取って、到着の飛行場で関係者に

渡していただける方はご連絡ください。

●インターン希望

活動現場で、また本部事務局でインターンを希望される方は、履歴書とインターン希望の理由をA4 用紙1 枚にまとめて事務局にメールかFax，郵送でお送りください。書類審査の上、お返事いたします。

●チャリティー大会募集中

主なチャリティー大会を5 ページに記載しましたが、地域で行われる小規模のイベントでも構いません。チャリティー大会として、HG の活動をご支援していただける会があればお知らせください。

●未使用の切手、はがきを送ってください。

【ご入金について】

HGの会計年度は、4月1日より3月31日になります。

会費や寄付をご入金いただく場合は、下記の口座にお願いします。または、通信等に同封しております郵便払込票をご利用ください。郵便振替以外からお振込みの場合は、必ず、住所、氏名、連絡先をメールかFAXで事務局にご連絡ください。ご連絡がない場合は、領収書が出せないことがあります。

○銀行振込の場合

取引銀行 三菱東京UFJ銀行岡山駅前支店
預金種類 普通預金
口座番号 0931214
取引名義 特非) ハート・オブ・ゴールド

※ATMにて振込の場合は、振込依頼人様の欄に「会費」または「寄付」の別と依頼人様のお名前をご入力願います。

(例) カイヒ ニホンタロウ、ニホンハナコ キフ

○郵便局で払込の場合

口座番号 01300-3-11024
加入者名 ハート・オブ・ゴールド
通信欄 払込金額の内容(会費/寄付の別)
を必ずお書き願います。

※会費、寄付の会計処理について

会費、寄付の明記がない場合、会計年度内に会費をご入金済みの方は、誠に勝手ながらご寄付とさせていただきますので、ご了承をお願い致します。(その場合は寄付控除が受けられる領収書をお送りします)

【寄付控除について】

HGは、岡山市より税制優遇の認定を受けた法人です。皆様からいただいたHGへのご寄付はすべて、寄付金控除が受けられます。

<個人の方> 特定寄付金としてみなされます。所轄税務署にて、当団体が発行した領収書を添付して確定申告を行ってください。また、住民税における取扱いは、各自治体により異なる場合があります、全国一律ではありません。

<法人の方> 一般寄付金の損金算入限度額とは別に、同額の損金算入限度額が設けられます。寄付を行なった日を含む事業年度に、他の認定NPO法人、公益財団法人、社団法人に対する寄付金の額と合わせて確定申告を行ってください。

領収書の再発行は致しかねますので、確定申告時まで大切に保管しておいてください。

領収書の宛名は、原則、ご寄付の際にお知らせいただいたお名前、ご住所となります。

※遺贈(遺言書)・相続・香典による寄付

遺贈: 遺言により貴重な財産をご寄付いただくことができます。その場合、相続税控除の対象となり、必要な手続きをお取りいただくことで税法上の特例控除が受けられます。(遺贈に関しては、信託銀行、税務署、税理士などに詳細をお問い合わせください。)

相続: ご遺族の方が相続により取得した財産の一部または全部をご寄付いただいた場合、その財産には相続税がかかりません。相続税の税務署への申告期限は、故人がおなくなりになった日の翌日から10カ月以内です。予め当会への手続きを済ませ、申告期限内に領収書を添付して税務署へ申告してください。

香典: 葬儀・告別式で寄せられたお香典・供花代に対する「お香典返し」の代わりに、NPO/NGOなどの社会貢献活動団体に寄付される場合、HGから感謝状をお送りいたします。

※ご本人・ご家族の意志に合った、支援の形をご提案いたしますので、事務局にお問い合わせください。